

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当法人の経営理念に地域密着24時間365日「すぐやる・必ずやる・できるまでやる」すべては利用者様のためにとあるように地域のニーズに合わせ、できることの実践を積み重ねている。	経営理念の他にホームのスローガンを毎年決めている。今年度立てた「気づこう・感じよう・みんなの心の声」に取り組み、書道をしている利用者書いたスローガンが事務所に貼られている。年度末には職員全員で振り返りと評価をし、それを踏まえて次年度のスローガンを決めている。毎日の朝礼で管理者・リーダーが中心になり職員が確認する機会を持っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様のなじみの美容院だったり、スーパーに行くなど当たり前の暮らしの中でのつながりを大切にしている。地域のイベントにも参加させていただいている。	自治会に加入し回覧板などで地区の情報を得て、年2回行われるゴミ拾い、どんど焼き、地区のお祭り、川中島フェスティバル、初参りなどの行事に参加している。ホームの夏祭りの時には近所の方にチラシで周知し、地元小学校のプラスバンド、民生委員、ボランティア、近所の方などとも交流している。日頃から歌のボランティアや小学校福祉委員、職場体験の高校生などいろいろな方が来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様・御家族様に限らず、介護相談を受けている。地域包括会議にも参加させていただきながら認知症について話させていただきながら一緒に勉強させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のメンバーの方の貴重な意見をいただき実際のサービスに反映させている。ホームの中のことだけでなく、地域の事もまなばさせていただき、貴重な時間となっている。	2ヶ月に1回開催している。家族、利用者(交替で)、区長、民生委員(4名)、近所の方、市職員、地域包括支援センター職員を委員として事業報告や運営に関することについて意見交換している。最近では、地区の方の交流の場(例えばバイオリン教室や手芸教室など)としてホームを使用してもらうことで利用者との接する機会をつくる等、家族の協力も得ながら前向きに検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスの質の向上と方向性を講習会や研修を通し学ばせていただく中で当ホームで方向性を決め、取り組んでいる。	地域包括支援センターが中心に地域会議が3ヶ月に1回行われ、利用者と職員が出席し「認知症になったら、この地区はどうなってほしいか」を地区の方、介護経験者、民生委員等と一緒に話し合っている。またオレンジカフェの場所としてホーム一室を提供できることを伝えるなど、市や他事業所との協力関係ができていく。毎月、あんしん(介護)相談員が来訪し利用者や職員と話している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はいけない事なのになぜしてしまうのか、研修を重ねることで理解を深めようしたら身体拘束ゼロで安全な生活が支援できるようにするのかを検討しケアに取り組んでいる。	拘束をしないケアに取り組んでおり、職員は年2回研修し、拘束のないケアについて理解している。転倒予防のため家族了承の上、布団で寝ている方やベット柵を使用している方がいるが、担当職員が必要の無さを状況に応じて見直しており、会議で職員が意見を出し合い判断している。自宅に帰りたいという利用者に対しては、意向を聴いて一緒に歩いて自宅方向に向かい、利用者が納得するまで寄り添っている。	

グループホーム川中島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての知識を深めると主に、精神的な支援・環境整備に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会を持ち、理解を深めています。窓口にはパンフレットを設置し、必要な方に活用していただけるよう配慮しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約内容・重要事項に関して書面をもって説明させていただき、実際生活が始まった中で不安なことや疑問がないかを面会の際にお聞きしている。改定の際も同様におこなう中で不安・疑問点がないかお聞きしている、		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口に意見箱を設けている。面会の際には日頃の様子を伝えながら、ご家族様の意見・要望がないかお聞きしている。	ほとんどの利用者が言葉で意見や要望を伝え職員が応じている。家族の来訪は状況により様々であるが、来られた時には職員から話かけ要望を聴き、電話などでも様子を伝えている。今年度、家族同士が充分意見交換できるようにと、敬老会の開始前に家族の方々だけで中庭で話す時間を設け好評であったという。敬老会では1年間の利用者の様子(表情)を映像で伝え、記念品としてDVDを全家族に贈っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する方針は随時職員に伝え、職員の思いや意見は言葉に頼らず判断できるように努めている。物事をシンプルにとらえ、反映している。	職員全体会議が月2回あり、本社会議の内容を伝達してホームとしてのケア方針を話し合っている。毎日の朝礼とミーティングで利用者の緊急の困り事やケア方法などを検討し情報共有している。まず足踏みせずに実践し、そこから意見を出し合うように心がけ、管理者やリーダーは一人ひとりの職員の介護の現状から思いを察して必要な支援をしている。キャリアパス制度で、半期ごとに職員とリーダー・管理者との面談があり意見も聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員アンケートにより、要望・意見をもらい、職場環境・条件に取り入れています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修はもちろん外部研修にも積極的に参加できるように企画し、スキルアップの取り組みを行っている。		

グループホーム川中島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他職種の方が集まる研修や講演会に参加しネットワーク作りやサービスの向上に取り組んでいる。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい環境に心がけ、ゆっくり時間をかけてお話を聞くようにしている。信頼関係ができるように努め、言葉にできない思いや要望にも気づけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何でも話せる関係づくりを目指している。話しやすい雰囲気作りや声掛けに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・御家族様をはじめ、いろんな方からのお話を聞くことで情報を収集し、支援の方向性を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすことの意味を常に考え関係づくりを行っている。「こうあるべきだ」ではなくご本人に寄り添った考えができるように努め、関係づくりを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に暮らす中でご本人様が困っていることへの支えていく者として、ご家族様・職員が共に考えられるような関係づくりを目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院、習慣の継続のための支援を行っている。面会の制限はなく、来ていただくことも出かけていくこともご本人の意向に沿うようにしている。	知人や馴染みの布団屋、菩提寺の僧侶などの来訪がある。理美容に関して、行きつけの床屋で姿勢がしゃんとする方、美容室に行きとても嬉しそうなお方など、利用者の意向に沿って、店主と相談しできるだけ店に出向きおしゃべりしながらカットしてもらえよう支援している。家族や友人と連絡を取るために携帯を所持している方がいる。	

グループホーム川中島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士や職員と一緒に作業を行う。一緒に食事をする。一緒にテレビを見るなど一緒におこなうことで信頼関係が生まれ、支えあえるようになるよう、支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても必要に応じて今までと同様の御相談に応じます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御利用者様一人一人の意向に沿えるよう努めていますが困難な場合はできる限り我慢しない生活ができるように検討しています。	ほとんどの方については言葉や表情、しぐさから意向を把握できている。難しい方には必ず言葉がけをすることで意向確認をするよう心がけている。普段言葉で表現しない方が1対1になった時に言葉で思いを伝えることもあり、言葉がけの大切さを再認識したという。開所以来一緒に過ごしてきた「時間」が利用者職員のお互いの思いを察しあえる信頼関係を作っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・御家族様より生活歴をお聞きし、なじみの生活が継続できるようにサービスを提供できているか利用者様の様子やご家族様に相談させていただきながら見直しを行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気づきを大切にしています。情報の共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミニカンファレンスを毎日行い必要に応じて御家族さまや必要な関係者との話し合いの機会を持つように介護計画を作成しています。	計画作成担当者が利用者・家族の意向を取り入れ計画を作成し、6ヶ月で見直している。利用者と家族同席の上、計画内容を説明し同意を得ている。利用者一人ひとりの担当者がケアプランに基づいたチェック表と身体状況のケアチェック表で現状に合っているかどうか確認し、気づいたことがあれば毎日のミニカンファレンスで話し合っている。ケア方法の変更などはその日のうちに伝え合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別にケース記録に記入し、申し送りによって職員間で情報共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。		

グループホーム川中島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応できるようにご家族様やボランティアの方の力もお借りしサービスの多様化に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なじみの暮らしや人によって安心した生活が送れるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院が困難になってきている利用者様には往診制度も利用していただきながら適切な医療が受けられるように支援しています。	本人や家族の希望で、以前から継続のかかりつけ医を受診している方、協力医、往診専門の医師を受診している方と様々である。往診以外の受診は家族が付き添っている。ホームの看護師3名が中心となり医師との連携をとり、適切な医療が受けられるよう支援している。必要により歯科医師や歯科衛生士の訪問診療・指導を受けており、義歯の不具合の治療や嚥下困難な方に、食形態や食べる時の身体の角度など専門的な細かい指導を受け、個別ケアを実践している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が3人いますので適宜相談し、受診や看護が受けられるように支援します。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が入院した際も随時関係者とも連携を密にとり早期に退院できるように関係づくりを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所される際に看とりを見据えて終末期の在り方について説明し話し合いを行っています。日々経過して頂く中で状態の変化に伴い関係者間でも方針の共有をしながらチームで支援に取り組んでいます。	家族の意向に合わせて終末期の支援をしている。今年度4名の方の看取り支援をし、お別れをした。状態の変化により家族、医師と連携をとり、看取り介護に計画を変更し、会議で全職員が共有してケアに当たった。グループホームだからこそできる「その人らしい」看取りをしたいと考えている。職員は看取り支援の振り返りをし感じたことを共有している。その後も家族の方々との関係は続いており、職員と利用者に会うために時折訪れてくださるという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法はマニュアルにしてあります。毎年研修を行い手順について周知を行っています。昨年よりAEDも設置し講習も受けています。		

グループホーム川中島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行っています。いろいろな想定をした上での消火訓練や避難訓練を行い、消防署の方より指導を頂きます。又専門業者により、年2回設備点検も行っていただいています。	年2回消防署に計画を提出し、そのうち1回は消防署立ち合いで防災訓練を実施している。火元をその都度変え、日昼、夜間といろいろな状況を想定して実施している。利用者も参加しスムーズに避難できている。避難先について運営推進会議に投げかけると、隣に住む方が自宅を避難場所として提供することによって毎回ご協力頂いている。今後に向けて通報緊急連絡訓練についても更に実践に活かせるよう検討を重ねている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普段からプライバシーを損ねるような声掛けや対応をしないように心がけています。馴合いからマンネリ化しないように話し合いの機会や研修を設けています。	言葉使いや言い方一つひとつを利用者がどう思うか考え、優しく丁寧な対応を心がけており、慣れ合いにならないよう気をつけている。利用者が今までの暮らしの中で続けてきた書道、俳句、ピアノ、塗り絵、読書、買い物などを継続できるような環境を整え支援している。また金銭の自己管理のため銀行の行き帰りを支援するなど、利用者の尊厳のある暮らしを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選ぶことができる様に支援することがご本人様の意思を尊重することの基本だと考えています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活ですので決まりはありますがあくまでも基本と捉え、利用者様の意向に沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服や髪形はご本人が選べるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から後片付けまで役割の一つとして一緒に行っていただいています。「何年やっていると思っているの？」と笑顔でジャガイモの皮をむいて下さる利用者様。いろいろ教えていただいています。	法人全体で献立が決まっており、職員が調理し利用者には下ごしらえや食器洗いなど出来ることを手伝っている。誕生日にはおやつに好みのものが用意され皆でお祝いしている。外食は利用者の行きたい所を聞き、ネタの大きな回転寿司やそば屋などに行くことが多く、ホームで食べるよりずっと多い量が食べられるという。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表をを付けて食事量の把握。体重測定で適量かどうかの判断をしています。献立は専門業者より管理栄養士の方が作ってくださった献立を使っています。食事量は利用者様毎に変えています。		

グループホーム川中島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きをして頂き、十分に磨くことができない方には介助にて歯磨きをさせていただいています。歯科衛生士による口腔歯科指導も取り入れています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活習慣の中から排泄パターンを把握し介助を行っている。できる限りトイレで排泄行為ができるように支援しています。	トイレでの排泄を支援しており、座位がとれる方はリハビリパンツで必要な支援をうけ、三分の一ぐらいの方は布パンツで自立している。夜間は自分で起きてトイレに行く方、声掛けして職員と一緒に行く方など、その方に合わせて支援している。徐々に重度になっていく方が多くなり、リハビリパンツからオムツに切り替える時期は職員間で話し合い慎重に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量など影響を及ぼす因子の理解と把握を行いトイレに座って排泄していただけるようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	清潔が保てれば回数にこだわらず、ゆっくり入浴していただけるように時間の調整をしている。声掛けや誘導はさせていただいているが無理強いはいしない。	日にちや時間を決めずに利用者に声をかけ、週2回以上入浴できるよう支援している。入浴を拒む利用者に対しては声掛けや職員を変えたり家族の協力を得るなど工夫し無理強いはいしないようにしている。車椅子の方は職員2名で対応している。季節によって菖蒲、ゆず、薔薇などを入れ楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方で夜間の睡眠が左右されやすいので日中は楽しく体を動かしていただく工夫をしている。また天気の良い日は布団を干すなど環境にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルにそって介助を行っている。介助方法は利用者様毎に変えている。服薬内容や副作用は薬の説明書と書面と口頭での申し送りで理解の徹底を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意なこと、苦手なことの情報を基に一人一人の生活歴や力を活かした役割を持っていただいている。楽しい事や仕事があることで居場所ができています。		

グループホーム川中島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に興味で毎日のように出かけられる方もいらっしゃる。中庭の花を眺めるだけで良い御利用者様もおられる。外出を好まれません。ゆっくり過ごしたい利用者様もおられる。個々に合わせた外出支援を行っている。	春の花見にはホーム全体で出かけ、家族やボランティアの協力を得ることもある。近隣の人形館、恐竜公園、古戦場、運動公園などへ出かけている。日頃は利用者の意向に沿って外出支援し、買い物や散歩、時には「おいしいものを食べにどこにいきましょうか」と利用者に関心かけ外出先を決めることもある。以前に比べると利用者から希望が出てくることは少なくなっているが、職員から声をかけドライブなども楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御利用者様の希望や力に応じて、ご家族様と相談の上お金を所持していただいている。管理についてもご本人にお任せしている。支援が必要な方については、お小遣い程度の金額をご家族様よりお預かりし支援させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様に届いた手紙やはがきはご本人に渡したり、代読させていただくなどの支援をしている。年賀状など季節のあいさつは、はがきを一緒に書くなどの支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には四季のお花を生けたり、掛け軸をかけて楽しんでいただいています。廊下は明るすぎず暗すぎないように工夫し、トイレは夜間電気を消さず、場所がすぐわかるように工夫しています。	明るいフロアにオープンキッチンの食堂と、炬燵が置かれた小上がりの畳スペースがあり家庭的である。利用者や家族が作った俳句や塗り絵、行事の写真、職員の写真などが飾られている。居室に続く廊下は中庭を眺めながら歩くことができ、梅やチューリップなどの花木から季節の移り変わりが感じられる。3ヶ所あるトイレの中に高さの低いものが一つあり女性利用者が多く使っているという。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂であったり、和室のこたつであったりとそれぞれの過ごしたい空間と過ごし方を大事にしています。冬場は炬燵が人気です。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れたものをできるだけ多く持ってきていただき、ご本人が居心地良く過ごしていただける空間にできるようご家族様をお願いしている。	居室にはベット、エアコン、クローゼット、洗面台が備え付けられており、使い慣れたタンスや椅子、仏壇などが置かれそれぞれの居室づくりがされている。布団を使っている利用者もいる。利用者の思いを大切にしながら掃除などを一緒に行なっているため室内は整理整頓されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	平屋の建物で床はバリアフリーになっている。廊下は車いすとのすれ違いも楽にできる広さとなっている。中庭も段差がなく自由に出入りできる構造になっており、四季の花や果樹が植えてあり楽しめるようになっている。		